



S.Sakaguchi

ジャパン・オータムインターナショナル ロンジン賞

THE JAPAN CUP

第45回 ジャパンカップ (GI)(国際招待)

1 着 2 着 3 着 4 着 5 着
本 賞500,000,000円 200,000,000円 130,000,000円 75,000,000円 50,000,000円
付加賞 3,780,000円 1,080,000円 540,000円



レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

3歳以上、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 3歳56^{kg} 4歳以上58^{kg}、牝馬2^{kg}減

2025.11.30 東京 晴・良 芝2400^m (国際)(指定)

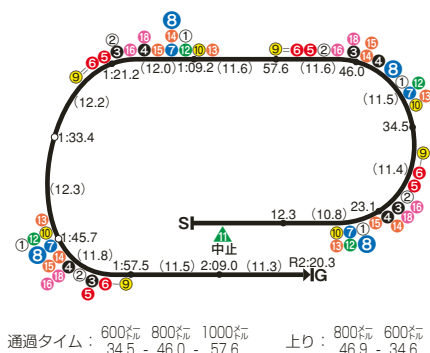
| 順 | 馬番 | 馬名 | 性齢 | 斤量 | 騎手 | タイム (着差) | コーナー 通過順位 | 上り (600 ^m) | 馬体重 (増減) | 単勝 オッズ | 調教師 | レーティング |
|----|----|-----------|----|----|--------|-------------|--------------|---------------------------|-------------|-----------|-------------|--------|
| 1 | ⑧ | カラダガン | 騾4 | 58 | M/Vルナ | R2:20.3 | 11-11-10-11 | 33.2 | 456(-) | 6.2④ | Fクラファール(仏国) | 130 |
| 2 | ⑤ | マスカレードボール | 牡3 | 56 | Cルメル | アタマ | 10-8-9-9 | 33.4 | 470(±0) | 2.5① | 手塚貴久(美浦) | 129 |
| 3 | ⑭ | ダノンデサイル | 牡4 | 58 | 戸崎圭太 | 2½ | 8-8-10-9 | 33.8 | 508(-) | 5.0③ | 安田翔伍(栗東) | 125 |
| 4 | ② | クロウデュノール | 牡3 | 56 | 北村友一 | 1 | 4-4-4-5 | 34.4 | 512(-) | 4.6② | 斉藤崇史(栗東) | 123 |
| 5 | ① | ジャスティンパレス | 牡6 | 58 | C.デムーロ | クビ | 11-12-13-13 | 33.5 | 470(±0) | 12.2⑤ | 杉山晴紀(美浦) | 122 |
| 6 | ⑬ | ブレイディヴェエグ | 牝5 | 56 | T.マーカド | ½ | 15-15-16-16 | 33.4 | 474(±0) | 41.5⑨ | 宮田敬介(美浦) | 117 |
| 7 | ⑨ | ダンスィエーラ | 牡5 | 58 | D.レーン | ½ | 6-6-7-6 | 34.4 | 502(-6) | 17.4⑥ | 堀 宣行(美浦) | 120 |
| 8 | ⑩ | シンエンペラー | 牡4 | 58 | 坂井瑠星 | 1¾ | 4-5-6-6 | 34.7 | 498(-) | 28.9⑦ | 矢作芳人(栗東) | 117 |
| 9 | ③ | コスモキュランダ | 牡4 | 58 | 丹内祐次 | 3 | 6-6-4-3 | 35.6 | 522(+2) | 349.3⑩ | 加藤士津八(美浦) | 113 |
| 10 | ⑪ | シュトルヴェ | 騾6 | 58 | 菅原明良 | 1¾ | 15-15-15-13 | 34.9 | 478(-2) | 442.0⑦ | 堀 宣行(美浦) | 110 |
| 11 | ④ | ディーブモンスター | 牡7 | 58 | 松山弘平 | ¾ | 8-10-7-6 | 35.6 | 470(+4) | 72.4①① | 池江泰寿(栗東) | 109 |
| 12 | ⑥ | セイウンハーデス | 牡6 | 58 | 津村明秀 | 2 | 1-1-1-1 | 36.9 | 472(±0) | 162.1⑧ | 橋口慎介(栗東) | 106 |
| 13 | ⑦ | ダノンバルーガ | 牡6 | 58 | 佐々木大輔 | アタマ | 13-13-10-11 | 35.5 | 498(-10) | 274.2⑤ | 堀 宣行(美浦) | 106 |
| 14 | ⑫ | ヨーホーレイク | 牡7 | 58 | 岩田望来 | ½ | 13-13-13-13 | 35.4 | 522(+2) | 159.8⑨ | 友道康夫(栗東) | 105 |
| 15 | ⑤ | サンライズアース | 牡4 | 58 | 池添謙一 | 1¾ | 3-3-3-3 | 36.7 | 530(-4) | 33.4④ | 石坂公一(栗東) | 102 |
| 16 | ⑥ | ホウオウビスケッツ | 牡5 | 58 | 岩田康誠 | 5 | 2-2-2-2 | 37.7 | 502(-2) | 166.8⑩ | 奥村 武(美浦) | 95 |
| 牝 | ① | アドマイヤテラ | 牡4 | 58 | 川田将雅 | | | 494(-2) | 46.1⑩ | | 友道康夫(栗東) | |
| 競 | ⑦ | ドゥレツツア | 牡5 | 58 | A.ブーヤン | | | | | | 尾関知人(美浦) | |

単勝⑧620円(4^{kg}) 複勝⑧210円(4^{kg}) ⑤120円(1^{kg}) ⑭180円(3^{kg}) 枠連④-⑦740円(4^{kg})

馬連⑧-⑤1,180円(3^{kg}) ワイド⑧-⑤520円(4^{kg}) ⑧-⑭740円(9^{kg}) ⑩-⑤320円(2^{kg})

馬単⑧-⑤2,370円(8^{kg}) 3連複⑧-⑩-⑤1,930円(3^{kg}) 3連単⑧-⑤-⑭11,070円(25^{kg})

5重勝⑦②⑤⑤⑧39,579,170円(14票) 対象競走: 東京10R/京都10R/東京11R/京都11R/東京12R



通過タイム: 600^m 800^m 1000^m 上り: 800^m 600^m
34.5 - 46.0 - 57.6 46.9 - 34.6

アラカルト

- ・M.バルザローナ騎手はジャパンC初勝利。JRA重賞はネロで制した16年京阪杯に続く通算4勝目
- ・F.グラファール調教師はJRA重賞初勝利
- ・Gleneagles産駒はJRA重賞通算2勝目
- ・外国調教馬の勝利は05年アルカセット以来、通算15回目
- ・勝ちタイム2:20.3は18年ジャパンCでアーモンドアイが記録した2:20.6を更新する3歳以上芝2400^mのJRAレコードおよびコースレコード
- ・ドゥレツツアは疾病(左前肢跛行)のため出走取消
- ・アドマイヤテラは発走直後につまずき、騎手が落馬したため競走中止
- ・非抽選馬 1頭(サンストックトン)

外カランダガンIRE Calandagan

騏 鹿毛 2021.1.27生

アイルランド Haras De S.A. Aga Khan Scea生産

馬主・アガ・カーン・スタツ フランス・F.グラファール厩舎

馬名意味・フィリピン島の名前より

| | | |
|-----------------------|-------------------------------|----------------|
| Gleneagles 鹿毛 2012 | Galileo 鹿毛 1998 | Sadler's Wells |
| | | Urban Sea |
| | You'resothrilling 黒鹿毛 2005 | Storm Cat |
| | | Mariah's Storm |
| Calayana 鹿毛 2014 | Sinndar 鹿毛 1997 | Grand Lodge |
| | | Sinntara |
| | Clariyn 鹿毛 2009 | Acclamation |
| | | Clodovina |

F16-b

5代までのインブリード：Northern Dancer S4×S5

INTERVIEW

F.グラファール 調教師

本当に素晴らしい一日でした

輸送もうまくいき、良い状態で来日できました。真のチャンピオンとしてその走りを示してくれたと思います。レース展開も私が描いていたとおりでした。カランダガンはとてもバランスの取れた馬だと思います。身体的にもチャンピオンとしての属性を十分に有しています。今日は勝利を挙げることができ、私たちも大変楽しむことができ、本当に素晴らしい一日でした。

H.Yamanaka



3歳時から高い素質の片鱗を示していた本馬は4歳を迎えて本格化。始動戦のドバイシーマクラシックはダノンデサイルの2着、続くコロネーションCも2着に敗れたが、サンクルー大賞、ギンクジョージ、英チャンピオンSとG1・3連勝を飾り、世界ランキンG1位の評価を獲得した。騏馬(凱旋門賞に出走できない)という背景に加え、馬場適性も考慮したうえで、早くからジャパンCを目標に定めた陣営の見立て通り、この日は「世界一の脚力」をまさまざとアピール。強烈なインパクトを刻んだ王者の走りは、末永く語り継がれていくことだろう。

父グレンイーグルス Gleneagles

アイルランド産 愛、英、仏、北米11戦7勝(英2000ギニー^{G1}、愛2000ギニー^{G1}、セントジェームズバレスS・英^{G1}、ヴィンセントオブライエンナショナルS・愛^{G1}、フューチュリティS・愛^{G2}、タイロスS・愛^{G3}、ジャンリュックラガルデール賞・仏^{G1}3着)、全欧2歳牡馬チャンピオン、16年から愛で供用〔代表産駒〕カランダガン Calandagan(本馬)、ミルストリーム Mill Stream(ジュライC・英^{G1})、ラヴィングドリーム Loving Dream(ロワイヤリュウ賞・仏^{G1})、ハイランドチーフ Highland Chief(マンノウォーS・米^{G1})、アローイーグル Arrow Eagle(ロワイヤルオーク賞・仏^{G1})、パラディウム Palladium(独ダービー^{G1})、ノヴェンバ Novemba(独1000ギニー^{G2})、シャヴァーサナ IRE(伊オークス^{G2})、ロイヤルスコッツマン Royal Scotsman(リッチモンドS・英^{G2})、インシュニエンドゥIRE(キルボーイエステートS・愛^{G2})、ヴェロアトレタ Vero Atleta(伊グランクリテリウム^{G2})、他に重賞勝ち馬多数

母カラヤナ Calayana

フランス産 仏6戦2勝(ミネルヴ賞^{G3}2着)

カリイザ Caliyza(20 牝父Le Havre)仏、英7戦2勝

カランダガン Calandagan 本馬 (21 騏父Gleneagles)中央1戦1勝(ジャパンC^{G1})、英、仏、首13戦7勝(キングジョージVI世&クイーンエリザベスS・英^{G1}、英チャンピオンS^{G1}、サンクルー大賞・仏^{G1}、キングエドワードⅦ世S・英^{G2}、オカール賞・仏^{G3}、ノアイユ賞・仏^{G3}、英チャンピオンS^{G1}2着、英インターナショナルS^{G1}2着、コロネーションC・英^{G1}2着、ドバイシーマクラシック・首^{G1}2着)、全欧年度代表馬獲得総賞金1,230,680,000円

カラマンドラ Calamandra(22 牝父New Bay)仏6戦1勝(ベルドニユイユ賞^{G3}3着、ジュベール賞・L3着)

カラシタ Calasita(23 牝父Zarak)仏1戦0勝

(24 牝父Palace Pier)

祖母クラライン Clariyn

フランス産 仏1勝

カラヤナ Calayana(14 前出)

クライド Clyde(20 牝父Territories)ポーランド4勝 ポーランド2歳牡馬チャンピオン

曾祖母クロヴィナ Clodovina

アイルランド産 仏1勝(イソラベラ賞・仏L2着)、カन्दル Canndal(ベルモントダービー招待S・米^{G1}2着)の母

「世界一の脚力」を披露した王者が制覇

外国馬の勝利は2005年のアルカセツト(イギリス)が最後。近年は日本馬の上位独占が続いていたジャパnCの歴史に新たな一頁が刻まれた。1番人気に支持された秋の天皇賞の覇者マスカレードボールとの一騎打ちを制し、JRAレコード(うま分20秒3)も樹立して勝利を飾ったのは、フランスからやって来た唯一の外国馬カランダガン。欧州の年度代表馬にも選出された4歳騏馬が、20年ぶりに重たい扉を開いた。スタート直後に躓き、騎手が落馬したアドマイヤテラが競走を中止。波乱含みの幕開けとなったレースは勢いよく飛び出したセイウンハーデスが先導役を務め、予想外のハイペース、縦に

長い隊列で進んだ。2番人気に支持された3歳のダービー馬クロワデュノールは先頭から6、7馬身離れた4番手を追走。マスカレードボールは中国4歳のダービー馬ダノンデサイルが直後に続き、カランダガンのM・バルザローナ騎手も2頭の背後でじつくりと末脚を温存した。

一時は後続に9馬身ほどのリードをつけたセイウンハーデスは直線の坂で失速。かわってクロワデュノールが先頭に立ったのも束の間、その外から目を見張る勢いで伸びてきたのがマスカレードボールとカランダガンだった。併せ馬の形で激しく火花を散らした2頭。日本の若き天皇賞馬もよく食い下がったものの、息詰まる攻防の軍配はカランダガンに上がった。

3歳時から高い素質の片鱗を示していた本馬は4歳を迎えて本格化。始動戦のドバイシーマクラシックはダノンデサイルの2着、続くコロネーションCも2着に敗れたが、サンクルー大賞、ギンクジョージ、英チャンピオンSとG1・3連勝を飾り、世界ランキンG1位の評価を獲得した。騏馬(凱旋門賞に出走できない)という背景に加え、馬場適性も考慮したうえで、早くからジャパンCを目標に定めた陣営の見立て通り、この日は「世界一の脚力」をまさまざとアピール。強烈なインパクトを刻んだ王者の走りは、末永く語り継がれていくことだろう。